

私の家族 ラテ

一年 朝倉成海

コロナ禍、家族でペットショップに訪れたとき、手のひらサイズの生後一ヶ月のウサギがいました。毛の色は薄い茶色と白。そのきれいな毛並みと配色と何ともいえないかわいらしさに一目惚れをして、家族に迎えたのがラテです。

家に来たばかりのころは、抱っこすることも、触れることもラテのストレスになってしまったため、見て癒されることしかできませんでした。少し大きくなり、ようやく触れられるようになったのですが、環境に慣れていないのか、ラテは部屋の隅にすることが多く私たちに対して、警戒しているようでした。また抱っこしようとすると手を噛んだり、爪で攻撃したりしたので、私は傷だらけでした。ウサギはすぐに慣れて、抱っこができるものだと思っていたのでショックでした。「なぜ噛んだり、攻撃したりするのだろう」と疑問に思い、調べたところ、ウサギにも人間と同じように反抗期があり、大人になりかけの時期はそんな風に乱暴になることを知りました。

1年ほど経ち、ラテの反抗期も終わり、環境にも慣れ、生活のリズムが整いました。幼いころとは違い、ラテは自分から寄ってきてくれて、お腹を自分に見せてくれたり、後ろ足を伸ばしてねたりするようになりました。これは、安心してている証拠。また、時々部屋の中をひねりを加えたジャンプをしながら猛ダッシュをするようになりました。これは、嬉しくて大興奮している証拠。それから、部屋を散歩した後に「ラテ、お家に入って」と言うと言わぬ間に帰ってくるようになりました。これは私の言葉を理解してくれている証拠。自分がなでてほしいときには、私の手の下に頭を入れてくるようになりました。これは、甘えている証拠。ラテのしぐさや行動を見て、私もラテの気持ちができるようになりました。ラテを迎える前は、誰にも相談できないことや泣きたいほど辛いことを自分の心の中のためにしまい、登校できなかったことがありました。でもそれを大きくなったラテに相談すると、ラテも私の気持ちを察して、そばに来て話を聞いてくれました。まるで私を励ましてくれるように。そうすると私の気持ちも楽になり、いやなことがあっても登校できるようになりました。最近私がコロナに感染し、ラテの部屋で隔離生活したとき夜一人で怖くて眠れなかったとき、ラテをなでると、安心して眠ることができました。昼間一人でいなくてはいけないうきも、ラテがそばにいてくれるだけで寂しい気持ちになることは、ありませんでした。

ウサギは平均寿命が7、8年と言われています。今私は中学生で小学生の時とは違い部活や塾で忙しく、ラテという時間が少ないですが、ラテのためにたくさん散歩したり話したりなでたりしてあげます。私にとってかけがえのない存在のラテを大切にしていきたいです。